世界恐慌

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿ 月 ＿＿＿＿ 日

平安　鎌倉　室町　安土桃山　江戸　明治　大正　**昭和**　平成

今日の問い

世界恐慌はなぜ起こり、各国はどのように立ち向かったのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 世界恐慌の始まり

株の大暴落

2 1929年に始まり、世界に広がった大不況。

1 ニューヨークにある株式取引所の街。

第一次世界大戦のあと、アメリカは世界でいちばんの経済大国となり、1920年代には空前の好景気をむかえた。しかし、工場では品物がつくられすぎ、売れ残りが目立つようになった。

1929年10月、ニューヨークの [1] **ウォール街** にある株式取引所で株価が大暴落した。銀行や会社が次々とつぶれ、失業者があふれた。アメリカは世界各国に資金を貸していたため、それをいっせいに引きあげ、不況は各国に広がった。こうして1929年から始まった世界的な大不況を [2] **世界恐慌** という。日本もアメリカ向けの生糸などの輸出が落ちこみ、大きな打撃を受けた。農村では農産物の値段が下がって、人々の暮らしはいっそう苦しくなった。

アメリカの好景気（売れ残りが増える） ▶ **株価の大暴落**（1929年10月） ▶ 銀行・会社の倒産（失業者が増える） ▶ 世界恐慌（せかいきょうこう）（各国に波及）

2 ニューディールとブロック経済

各国の対策

5 ローズベルト大統領が行った経済政策。

4 本国と植民地で貿易を囲いこむ政策。

1933年、アメリカのローズベルト（ルーズベルトとも）大統領は、[3] **ニューディール（新規まき直し）** とよばれる政策を行った。政府が積極的に経済に関わり、ダムなどをつくる公共事業で仕事を増やし、労働者が労働組合をつくる権利も認めて、景気の回復をはかった。また、農産物がつくられすぎないよう生産を調整して、値段の下落をおさえようともした。

イギリスやフランスは、植民地との貿易を重視して、他国の商品には高い関税をかける [4] **ブロック経済** をとった。広い植民地をもつ国は、これで景気を立て直そうとしたが、植民地の少ない国は苦しくなり、国際的な対立が強まった。ソ連は社会主義の計画経済を進めていたため、恐慌の影響をあまり受けなかった。

国	対策
アメリカ	[5] **ニューディール**（公共事業など）
イギリス・フランス	[4] **ブロック経済**

できた ＿＿＿ / 5